

平成 30 年度 第 11 回 横浜市現市庁舎街区等活用事業審査委員会 議事録

日 時	平成 30 年 8 月 27 日 (月) 16 時 00 分～18 時 00 分
開 催 場 所	横浜市庁舎 5 階関係機関執務室
出 席 者	委員 7 名：岸井委員長、治田副委員長、石川委員、国吉委員、西田委員、野原委員、 矢ヶ崎委員 事務局（都市整備局）：村上都心再生部長、黒田都心再生課担当課長 ほか
欠 席 者	足立委員
開 催 形 態	非公開
次 第	関内駅周辺地区エリアコンセプトブック（現庁舎街区活用事業版）について
概 要	<p>議題について事務局から資料の説明をした後、委員による協議を実施 （主な発言要旨）</p> <p>1. 関内駅周辺地区エリアコンセプトブック（案）について</p> <p>（1）エリアコンセプトブック本編</p> <ul style="list-style-type: none"> ○エリアコンセプトブックの趣旨がわかりにくいので整理すべき。まず、エリアコンセプトブックなので、エリアの在り方を記載し、重要なプロジェクトである現市庁舎街区を詳細に記載しているのが街区版ということをつかせるようにした上で、全体のことが第 1 章、街区が第 2 章と分かるようにすべき。 ○この関内エリアや現市庁舎街区をどういう形にしたいのか分からない。特殊性があって、他の地域と違うという言い方になるなら、もっと明確にすべき。 ○関内・関外の魅力において、実際に街区を考えていく際に、連携の可能性がありそうなものを PR したほうがよい。 ○もともと関内には駅がなかったので、駅前に課題があり、再編の必要がある。それをこれを機会にどう魅力あるまちづくりをするのか、どう再編しようとしているかが分かるようにすべき。 ○用途のところで、関内エリアが変わっていく方向性が見えるようにしたほうがよい。まず現市庁舎街区、その後港町民間街区が連動し、さらに周りに波及させていくようなニュアンスが全体にでてくるようにすべき。 ○現市庁舎について、どうやってできたか、どういう構成かなど、きちんと説明したほうがよい。 ○デザインや構成、文書の行間のずれ、文言が重複している等が多いので修正すべき。 <p>（2）概要版</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市民からご意見をいただくので、どのような意見を求めているのか伝わるよう記載を工夫すべき。全体の時系列を示し、この部分に対して意見を求めており、次はこの段階に進むと整理すると市民としては理解しやすい。 ○（1）関内側エリアとその後の部分の間に第 2 章が入っていて、思考が中断されて分かりづらいので、レイアウトを工夫すべき。 ○第 1 章、第 2 章と記載しないほうが、逆に分かりやすい。 ○細かいことよりも、この機能の誘導によって、こう変わりますということをきちんと示したほうがよい。テーマばかりが強調されていて、これにより地域活性化を図るといったメッセージが伝わりにくくなっている。

	<p>○図をきれいにしたり、図と文章をアルファベットで対応したり、エリアコンセプトブック本編の何ページに記載しているのかわかるようにしたり、読ませる工夫もしたほうがよい。</p> <p>2. サウンディング型市場調査実施要領について</p> <p>○実施要領そのものがPR材料になるので、書き方を工夫した方がよい。特に、公募条件の書き方をよりやりたくなるように工夫したほうがよい。</p> <p>○各項目の求めている内容や重要度について、事業者にもう少し伝わるようにすべき。</p> <p>○ご意見を聞きながら、最終的に公募条件を整理するとききちんと書くべき。</p> <p>○歩行者ネットワーク、広場空間、地区のマネジメントについても、対話すべき。</p> <p>3. 提案審査（案）について</p> <p>○何十年も事業をしていただくことになるので、財務の健全性だけではなく、人の確保・育成も重要になる。そういう意味での運営体制は非常に大事だと思う。</p> <p>○施設計画や地区のマネジメントが何を評価してよいのかわからないので、検討すべき。</p> <p>○教育文化センター跡地と共通の部分は、共通にしたほうがよいのではないかな。</p>
資 料	<ol style="list-style-type: none"> 1 議事次第 2 「関内駅周辺地区エリアコンセプトブック」の市民意見募集について 3 「横浜市現市庁舎街区活用事業に関するサウンディング型市場調査実施要領」について 4 現市庁舎街区活用事業提案審査（案）について 5 「関内駅周辺地区エリアコンセプトブック第2章」について